



教育学部図書室

沿革

明治39年、京都帝国大学文科大学に教育学教授法講座設置。

昭和24年、新制京都大学教育学部設置。

教育学部は、教育原理関係、教育心理学、教育社会学、教育行政学、図書館学等の講座を設置している。その研究分野は極めて広く、人文、社会科学の領域に止まらず、自然科学の分野にまで関連を持っている。したがって教育学部図書室の蔵書構成も、教育学、哲学、心理学、社会科学等を中心に専門図書館としての要請に応えるよう配慮されている。

建築

現在、附属図書館の北側に白い美しい建物があり、更に増築中である。それが完成した暁には、これまで分散していた教育学部の研究室が、一カ所に集まる訳であるが、図書室はその中に入るのではない。それは、附属図書館をへだてて、南へ200～300mも離れた、赤レンガ三階建ての、かつて、地球物理学教室であった建物を使用している。

この建物は、明治30年の建造になり、アカデミックな雰囲気を与えているとはいえず、天井の雨漏り、コンクリート床のひび割れが、漸く大きくなろうとしていて、これ以上、書物を収容することは危険である。

その一階に整理室と書庫（文学部より保管転換の図書及び、小西文庫、高橋文庫を収蔵）がある。二階は開架閲覧室で、三階には雑誌閲覧室を設けてある。

あとがき

▶館内めぐりにかわって、新しく東西南北が連載されます。これは近年急激に増加した図書資料の山を前に、人手不足をはじめ、いろいろな問題や、悩みを抱えながら、どうすれば利用者に満足されるサービスを行ない得るかという課題に取り組んでいる部局図書室の現状をご紹介します。本号を皮切りに逐次さまざまな様相を呈して皆さん

蔵書

全蔵書数は、教育課程文庫等を含めると、3万7,000余冊ある。その中、文学部旧教育学教授法研究室より保管転換した、約6,400冊は、教育学関係文献の宝庫として、広く全国研究者に知られている。また、小西文庫、高橋文庫と称する2つの文庫は、前者は、昭和8年総長となった、小西重直博士の、後者は、教育学者、高橋俊乗博士の旧蔵書である。それらは、文学部より移管された図書と併せて貴重な文献となっている。

業務と展望

教官の教授・研究活動及び学生への奉仕を旨としている。現人員（定員4人、非常勤2人）では、十分なサービスを行ない難いが、新着の寄贈紀要に関して、コンテンツ・シート・サービスを昨年開始した。また、夏期休暇中は、図書室の整備に力を尽くしている。今年は雑誌の整理に着手した。その結果、従来不明瞭であった寄贈雑誌についても、把握できるであろう。

何処でも図書館は、スペースの問題に一番、頭を悩ますが、当図書室でも、現在の建物並びに隣接建物の幾室かを使用して、数年にして限界に達すると思われる。

大英博物館では図書室を中央に、その周りに研究室を配し、利用に至便である。専門図書館としての部局図書室の使命に鑑み、その新築に際しては、範とさるべきものであろう。



んの前に現われてまいります。どうぞご期待下さい。

▶私達は皆さんがこの記事を通して部局図書室の実状を理解され、問題点をくみっていただくとともに、図書館の本来の姿はいかにあるべきかといったことについて考えていただければ幸いに思っています。